



## 図書缶のイチオシ

サンタクロースって  
ハデだと思う。



武ログ 巻《二玄社》武ログ右筆衆 / 著

あの超メジャーな大名織田信長が、プログラーだったら…。その時代にはもちろんパソコンなんて無いんだけど、もし織田信長がブログをやっていたらこんな感じ(?)を実現させてくれました。最初は永禄3年5月5日、「うつけ参上」で始まる。時刻も丑の刻とかだし、楽天が楽市楽座だし、amazonがamasanだし芸が細かい！信長は、はじめ中小企業の社長という設定で部下には木下籐吉郎、前田利家、柴田勝家、池田恒興などなど…。個人的には「も～！チョット、ヤ～ダ～！」の書き始めでコメントを出す池田恒興がツボです。ちなみに『武ログ 弐』は、直江兼続の愛want忠日記だ。 【281.0/フ/1】



恋時雨《メディアファクトリー》狗飼恭子、橋口いくよ、佐藤真由美 / 著



オシャレで、静かで、ちょっぴり背伸びな切ない恋愛小説が11話も読めマス！今、恋している人も、恋していない人も日常ではありそうで、なかなかない出会いや別れ、再会を本の中で楽しんでみてはいかが？中にはひとつくらい、自分とよく似た主人公に出会ってサブタイトルに「恋はときどき涙がでる」とあるように涙が出てしまうかも…ね。

バイトで徹夜明けの彼女にバイト先が同じ男の子がディズニーランドのイツアスモールワールドに乗ろうと言ったときのこと。彼女が、「おう、じゃあ行こう。」はしゃいだり可愛いふりしたりは体力的に難しそうだったので親戚のおじさんみたいなテンションでこの場を乗り切ることにした…というくだりがあり、「う～ん、いい！」と参ってしまった。そのテンション、いただきだ。 【F913.6/コイ】

時々特集！  
結局連載？

## PAPAのイチオシ



年をとると、  
ハデになるのさ

百年の孤独《新潮社》G・ガルシア＝マルケス著

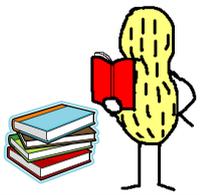
「世界の 大小説」のようなお題が出ると、必ずその中に入る作品のひとつ。読んだことはなくても、「百年の孤独」という強烈なタイトルだけは、どこかで聞いたことがあるでしょ？新興の町マコンドで、ブエンディア一族を中心に繰り広げられる、次から次へと続くとほうもない数のエピソード（怪しい錬金術だの空飛ぶ絶世の美女だの、山のような数の死者を積んで走る無茶苦茶長い貨物列車だの…、う～ん、書ききれん！）が、「おばあさんのむかしばなし」のスタイルで語られていきます。誕生から発展、衰退を経て、塵気楼のように消えていく町と一族。読み方は人それぞれでしょうが、「小説とは何か」という問いに対する答えが、ラストシーンに込められている！？ 【963/カル レファレンスフロアー（1F）】



雨に唄えば〔DVD〕/ジーン・ケリー監督

映画が無声映画からトーキーに代わる時代、それまで超かわいいアイドルと思っていた女優が、実はギャグマンガのキャラクター並みにおかしな声の持ち主だったとしたら、そりゃおもしろおかしいゴシップになるでしょう。実際、声がネックになって俳優業引退に追い込まれる悲喜劇は、当時ほんとうにあったらしいです。どしゃぶりの雨のなかで踊るジーン・ケリーのダンス場面が有名で、「たまには名作映画でも観てやるか」ってつもりで観たのですが、ミュージカルというよりは（よい意味での）楽しいドタバタ喜劇という印象のほうが強く残っています。「ミュージカルはちょっとねえ…」という人でも存分に楽しめる映画です。 【DVD 778.2/ア】

プレゼントほしい(泣)。



## 図書缶のイチオシ

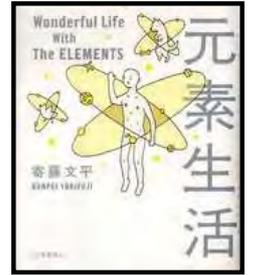
悲しい思い出なんて  
食べて忘れろっ!!



元素生活《化学同人》寄藤文平 / 著

すい、へ、り、べ、ぼくのふね...でおなじみの元素記号。必死で覚えませんでした？その元素記号をすべてキャラクターにしちゃったのが、この本。勉強に役に立つかどうかは置いて、このキャラクターがいい味だしてマス。試験中、元素の顔が浮かんできてプッと笑わないように。元素記号の特徴や、何に使われているか、どんな食品に含まれるかまた欠乏するとどうなるかが、オモシロい絵で説明されています。個人的にはコバルト(Co)が好きだ。あなたのお気に入り元素はナニ？

【431.1/ケ】



貝殻チェリー《講談社》青山こはる / 著

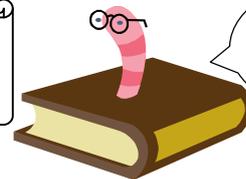


主人公の夏美は、ケータイ小説(ミステリー系)が大スキ。「貝殻チェリー」のニックネームでブログや小説のレビューを書いていた。ところが、貝殻チェリーがレビューを書くと、必ず総ページビューが増えて、その小説が出版されたり、映画化されたりする。夏美は、本人も気付かない読者の興味を持たせる文章を書く才能を持っていた。ある日見つけた面白いケータイ小説のミステリーの著者がクラスメイトの金髪不良少年だったことを知り夏美はこの少年の弱みを握ることに。逆にその小説に貝殻チェリーとして感想を送った自分の正体を必死で隠す夏美。夏美の親友美少女のハルト、夏美の片思い中の相手メガネ男子の烏丸君とを巻き込んでのラブ・コメディ。夏美のツッコミが絶妙でハマる！オモシロいから覚悟して読め！

【F913.6/アオ】

時々特集！  
結局連載？

## PAPAのイチオシ



空気なんて  
読むな！

バルタザールの遍歴《新潮社》佐藤亜紀著

20世紀初頭から第二次世界大戦にかけて、オーストリア・ハプスブルグ家傍系一族の末裔の、戦争と暴力に翻弄される流転物語という、聞いただけでどよよ〜んと重苦しくなるような舞台設定もさることながら、物語全体を支える非常に堅固な歴史観や文体を、いったいどうやってモノにしたのか？失礼な言い方だけど、これを読んだとき、現代の日本人が20代のときに書いた小説とはほとんど信じられなかったデス(自分も20代だったのでなおさらショック!)。「何を語るか」よりも「いかに語るか」にこだわりたい人にお勧め！

【913.6 サト自動書庫】

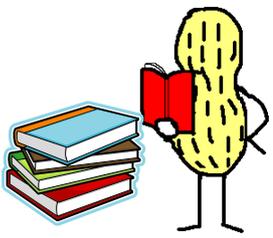


アラビアのロレンス〔DVD〕/デビッド・リーン監督

死ぬまでに観ておくべき映画があるとすれば、まさにこれ！といたくなる作品。西洋の歴史絵画には、画家がまるでその場面を実際に見てきたのではないかと思わせるようなものがよくあるけれど、横長の画面を最大限に活かし、砂塵を巻き上げて砂漠を駆け抜けるアラブ反乱軍を遠景から撮ったロングショットなどはまさにそんな感じ。映画を観ているというよりは、世界史の重要な一場面に立ち会っているかのようでめまいがしそう。映画評論家水野晴郎氏の「いやあ、映画って、ほんとうにいいもんですね〜」(古っ!、って、え?知らない...?、やはりオジサンなのね私...)ということばを心の底からかみしめる作品なんて、そうめったにないよ！

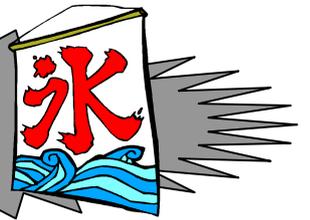
【DVD 778.2ア】

おもいはいかが？



## 図書缶のイチオシ

カキ氷は  
何味が好き？！



萌える乙女の社会科見学《コアマガジン》萌えスポ研究所 / 編

これも萌えのうちか〜っ！と、感心してしまった。そういう見方で防衛省市ヶ谷ツアーや、国会議事堂、はては警察庁本部まで「萌え」になってしまうある意味「ステキ」な本だ。修学旅行などで立ち寄りお決まりの名所見学なども、見方を変えたらなかなか1人では行けないレアな場所に。なかでも警察博物館の紹介は、飛び抜けて変。この1冊で、楽しい妄想をどうぞ。

【G291.3/モ】



チョコレエッタ《角川文庫》大島真寿美 / 著

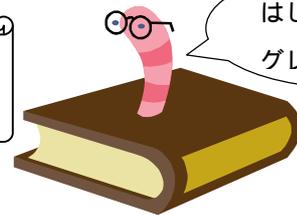


「私はチョコレエッタ。うそ。」度肝を抜かれる冒頭の文章で一気に惹きつけられてしまう。そして、うすっぺらな文庫本のクセに中身は濃い。主人公の宮永知世子は、映画研究会のOBである正岡の構えるカメラの前に立ち、「チョコレエッタ」になって少しずつ胸の内を語りだす。いつしか、自分すらも否定するほどにとがっていた気持ちが変わってゆく。知世子が正岡に食べ終わったアイスの棒を何気なく手渡されるシーンが、すごくイイ。「いつか思い出すのは、絶対この瞬間のような気がするよね。…記憶ってさ、もしかして、選べないんじゃないかな？」当たり前のことかもしれないけれど、言葉にするとう重みがあるよね。

【B913.6/オオ】

特別特集！  
時々特集？

## PAPAのイチオシ



はじめまして、  
グレッグだよ

ディーバ《新潮社》デラコルタ著

ジャン＝ジャック・ベネックスのスタイリッシュな同名映画の原作です。コンサートはするけれど自分のアルバムをつくらうとしない世界的なオペラ歌手シンシア・ホーキンス、その彼女に恋して、リサイタルで隠し録りを決行するメッセンジャーボーイのジュール。彼が自分のカバンにしまった録音テープと、何者かに追われ逃げてきた女性が同じカバンに隠したもう1本のテープが元で、ジュールを執拗に追う謎の2人組とそのボス。成り行き上ジュールを助ける少女アルバとその恋人兼保護者ゴロディッシュ。原作はゴロディッシュとアルバを軸に展開するシリーズもののひとつだったようですが、翻訳されたのは残念ながらこれだけみたい。登場人物はみな曲者揃い、クラシックを聴きたくなる、そしてパリに行きたくなる、おしゃれなロマンティック・サスペンスです。

【BSR 自動書庫】



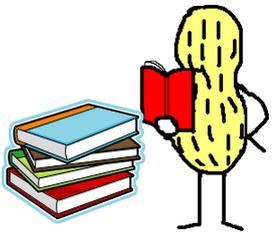
お早よう〔DVD〕 小津安二郎 / 監督

冒頭から、「男の子って、ほんっと、バカだよなあ！！！」とあきれ、笑えます。またその元凶が、結局大の大人（かなり昔にテレビの水戸黄門を演じていた東野英治郎）だったりします。まだテレビが高嶺の花だったころ、長屋に毛が生えた程度の、当時の「文化住宅」に住む数家族の何気ない（というかほとんどくだらない）日常生活を、小津安二郎のいつものローアングルで、ただし品のないドタバタにならないぎりぎりのところで踏みとどまる態度で、描いています。屁理屈をこねる子どもたち、以外と身勝手な大人たち、どちらも真剣なだけにかえて面白く、いかにも日本的に見えて、でも普遍的でもある家族映画の傑作です。

【778.1オ】

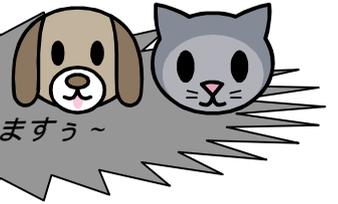


イチゴ味でしょっ！



# 図書缶のイチオシ

な~んとなく  
売れそな気がしますう~



ドアラのへや《PHP研究所》ドアラ / 著

いよいよ夏が近づき、プロ野球も盛り上がる季節です。みなさんが、どのチームを応援しているのかも、プロ野球に興味があるのかないのかもムシしてこの1冊をおススメ！地元球団中日ドラゴンズのマスコットキャラクターのドアラ本第2弾です。中日ファンでなくても、十分楽しめるよ。ドアラ先生の相談部屋では、「二度あることは三度あるって本当ですか？」という相談（質問？）にもズバリ「たまたま三度目だっただけ」と答えています。奥が深いといっているのか、それとも...。 【L783.7/ト】



みんな太郎《大空出版》ふわこういちろう / 著

なまえが「太郎」の人を、どのくらい知ってる？この本には、なまえが太郎の人をとてたくさん紹介してマス。太郎をいくつかのジャンルに分けてあり（モーレツ太郎やロマンティック太郎、マイナー太郎などなど）イラストたっぷり楽しく読めるよ！「このヒトモタロウだったね」と思わずつぶやくこと間違いナシ。麻生太郎をはじめ、くだおれ太郎、浦島太郎など人間とそうでないものまで網羅されている。くだおれ太郎に弟の次郎、さらにおやじがいたって知ってた（笑）？ 【F281.0/ミ】

金原瑞人〔監修〕による12歳からの読書案内 とれたて！ベストセクション《すばる舎》

このシリーズも第3弾。見た目がちょっとマジメっぽいからか、知る人ぞ知る本...というイメージだ。でも、ちょっと開いてみりんって。けっこうティーンズにウケている本が紹介されているんデス(ω)ゞ。どうせなら夢はでっかく...と、『世界征服』は可能か？』を紹介したり、笑いのツボにはまりそうな本では『淑女のエチケット』を紹介したりしてマス（「もしも断りきれずにYAZAWAのライブに来てしまったら...？」そんな時のエチケット知ってる（笑）？）かなりの割合でラノベも紹介されているから、「次、ナニ読もっかな？」の気持ちにがっつり応えてくれるはず。 【019/カ】

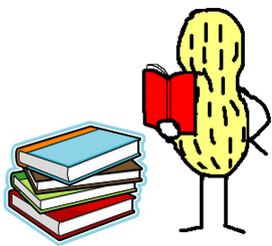


吉野北高校図書委員会、吉野北高校図書委員会2 委員長の初恋《メディアファクトリー》山本渚 / 著



イチオシひさびさ！胸キュン の（って死語？）小説だ。1の方は、吉野北高校という進学校の図書委員副委員長の川本かずらと、同じく書記の藤枝高広の微妙な関係を爽やかに描く。かずらは、もう1人の副委員長の大地とツーカーの仲だったが、「彼女はつくらない」と言っていた大地に彼女ができてしまう。その彼女は同じ図書委員の1年後輩のあゆみだ。かずらは、大地もあゆみも大好きだが大地に彼女ができたことで自分の気持ちに変化が起きたことに気付く。そんなかずらを、ずっとずっと見ていた藤枝は勢いで告白。さて2人の関係は...。もうひとつのおはなしはあゆみが主人公。2では、委員長のワンちゃんが、図書室司書の牧田先生に恋する自分に気づいてしまうという話。2年生の3学期ともなると進路についても考える時期。そんな進路についての悩みもからめながら話は展開する。2本目の話は、かずらと藤枝のその後（気になるでしょ？）。青春特有の（？）進展しそうで進展しない、2人の関係の答えを出さないはっきりしないイライラ感満載。さあ、みんなもぞんぶんにキュンキュンしてくれたまえ！（1の解説はなんとあの堀北真希ちゃんだっ！こっちも必読） 【F913.6/ヤマ】 【B913.6/ヤマ/2】

雨にも負けずっ！



## 図書館のイチオシ

あっ、そうなっちゃいます~？



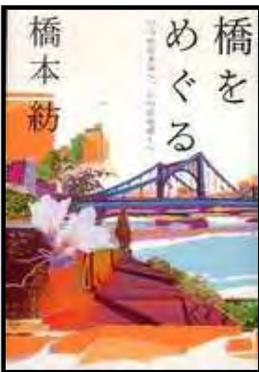
### 妄想工作《廣済堂あかつき出版》乙幡啓子 / 著

ダレもが1度は妄想したことがある(いやナイかもしれないけれど)ようなことを、本当に工作で再現しちゃった本。ハロウィンのかぼちゃのランタンは、ちっとも怖くないからって本当に怖い顔のランタンを作ってしまったり、グミキャンディでアクセサリーを作ったり。パールライスで首飾りっていうのもあった。写真を見るだけでも結構な満足感アリだが、せっかくなので、どうしてその作品を作る気になったかや、作る工程もしっかり読んで楽しもう 妄想だけで終わらせないその根性(?)が、スバらしい。おバカな作品がいっぱい

【N754.0/モ】



### 橋をめぐる《文藝春秋》橋本紡 / 著



その名のとおり、隅田川にかかる6つの橋のひとつひとつを舞台にした短編集。主人公は、老若男女、十人十色。どの作品も、フィクションなのにリアルで、登場人物は本当にその橋の近所で暮らしていて、まるでその生活の一部分を切り取ってきたかのよう。たとえば、「まつぼっくり橋」は、婚約したカップルが賃貸住宅をさがしまわな話で、どの家に決めるのか読み手も一緒に考えてしまう。ついに始まったカップルの意見の食い違いによるケンカをまるでその場にいるかのように仲裁しようと思ってしまうほどリアル(笑)。著者はラノベ作家出身で、代表作は『半分の月がのぼる空』(アスキーメディアワークス・2003年)。難をいえば、もっとこの話を読みたいのに短編なので終わってしまうことかな?

【F913.6/ハシ】

### おもしろピクトの作り方《誠文堂新光社》有限会社KAIGAN / 編著

どこへ行っても目にする“ピクト”。いちばんよく見かけるのは、トイレの男女のマークや非常口についている出口から出ようとするあの緑のヒトのマークかな。そんなピクトに人格を持たせてみたらどうだろう...? マッチョなピクトや、アチャコなピクトなどいろんなピクトがのってマス。こんなピクトが街中にあったら思わず、ぷっと笑っちゃいそう。

【H807.9/ニ】

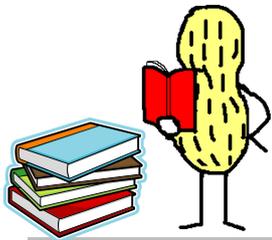


### プシュケの涙《アスキー・メディアワークス》柴村仁 / 著



自殺などするはずもない、大切な友人(あるいは友人以上に思っている人)が突然飛び降り自殺をしたと聞かされたらどうする? この小説の主人公の由良くんは、必死になってその友人の死について調べ始めた。前半はこの由良くんと、落ちていった少女を目撃した同級生榎戸川くんが少女の死について探り、その真実をつきとめる。後半は、自殺したとされる少女、吉野彼方を中心に物語がすすむ。後半を読むと、由良と吉野の関係が明らかになる。「友人の死」という、そう身近には滅多にない出来事なだけけれど、何故か読みすすめているうちに身近なことに感じ、とても切ない。電撃文庫なのに電撃文庫らしくない作品で、ラノベ好き以外の人でも読みやすい。ケータイ小説の次にコレ読んでもいいかもよ! 筆者の柴村仁は近畿出身の女性作家。他に『我が家のお稲荷さま。』(メディアワークス・2004年【J913/シ】)などの作品がある。【F913.6/キミ】

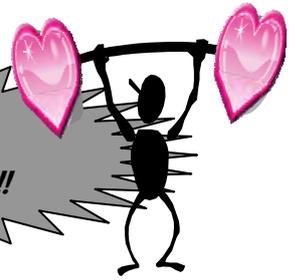
花より\*だんご



# 図書館のイチオシ

バレンタインデー

きょうりょく  
強カバックアップ!!



いがらしろみのカップケーキレシピ《小学館》いがらしろみ／著

バレンタインデーに今流行りのカップケーキはいかが？カップケーキを焼いて、クリームとトッピングを乗せれば完成！ケーキの中にジャムやドライフルーツを混ぜたり、上に乗せるクリームもバタークリームや生クリーム、アイシング、そしてチョコクリームなどの変化をつけたりトッピングにも工夫をすれば、すごくてくさんのバリエーションができるよネ。チョコレートも捨てがたいけれど、見た目もかわいいから、ライバルに差をつけちゃうかもよ。ふわふわ…（ブキミ）。

【H596. 6/1】



珍問難問宇宙100の謎《東京新聞出版局》福井康雄／監修

「宇宙は何色なの？」えっ？宇宙は黒じゃないの？…ええ、黒じゃないんデス。他にも「宇宙で花火大会はできるのでしょうか？」「ガンダムにでてきた『スペース・コロニー』は実現可能ですか？」などなど宇宙についてのオモシロイ質問がたくさん！理系の彼と話すキッカケなんかこの本で見つけられるかも？さて、宇宙は何色なのか…答えはもちろんこの本を読んでみてのお楽しみ。←まず当てられる人はいないと思うヨ(・m・)クスス。

【440. 4/チ】



日本全国ご当地回文《太田出版》中田芳子／著

回文って知ってる？上から下から読んで、同音の文章のこと。「たけやぶやけた」とか「みがかぬかがみ」などが有名なんだけど、この回文をどんどんつくっちゃうおばあちゃんがいるんです！回文って、予想もつかないような意味の文章ができたりして読んでも面白いよね。例えば地元愛知県のご当地回文では、「碧南、見事、男みんな消え！」「わたし蒲都、ついツリをごまかしたわ」など。友達同士で読んで、一緒に回文を作っているうちにいつしか友情から恋へと発展？さて、岡崎市の回文は、読んでのお楽しみ。

【H807. 9/二】



きみが見つける物語 恋愛編《角川書店》有川浩／ほか著



これぞバレンタインデーの時期にぴったしの本！サブタイトルは「十代のための新名作」ときた。読むしかないだろう。著者陣も上記以外に乙一、梨屋アリエ、東野圭吾、山田悠介と超豪華メンバー。それぞれの傑作短編を収録してあるよ。いきなり分厚い本はちょっと…とか、恋愛物が読みたいけどケータイ小説以外でなんかないの？…ってヒトにおススメです。ティーンズに支持のある作家ばかりなので読みやすいし、いろんな作家の作品を読めるので、当たりの福袋を買ったような超お買い得(?)の本なのだ。中でも、有川浩の『植物図鑑』は、どうやら続きがあるらしい…。続きが読みたい人はどこへアクセスしたらよいかも、ちゃんと書いてあるからご安心を。ミステリー風味や、SF風味、ホラー風味の恋愛も、ご賞味あれ。2人で読みあって感想を言い合ったら、好みの作品が一緒だったりして尚思いになれるかも☆(・\*・\*)他に友情編、スクール編、放課後編、休日編がありマス♪

【F913. 6/キミ】

だって、スキなんだもん。